

不可複写電子

自昭和十九年四月一日
至昭和十九年五月三十一日

陣中日誌

第五十飛行場大隊

防衛研究所戦史室

返還史料

返航
2720 ⁰
-392 ¹
21

陸
本土周辺
52-2



BoA 1055

沖
中隊

第五十飛行場大隊警備中隊

陣中日誌

22595

第一號

軍事秘密

自昭和拾九年四月一日
至昭和拾九年四月三十日

RS 76821
Cincpac-Cincpac
B-12492
Okinawa 26 April

W D C.
83269.

四月一日

於青山堡

雪後曇

〇六〇演習火災呼集發令セラレ中隊八日直士官大久保少尉ノ指揮ニ依リ

兵舎入口ヨリ火災ノ起リタル想定ノ下ニ約三分間消火作業並ニ物品搬

出訓練ヲ實施ス

朝食後主カヲ以テ被服送納準備並ニ轉身タノノ兵器被服物品梱包

ヲ實施ス

〇九〇〇ヨリ曹長以ニ對シ大隊長ハ訓示アリ其ノ要旨左ノ如シ

一團結 二私的制裁ノ絶無 三防謀

人員ノ異動

轉出

上等兵

福田久造

一等兵

尾田良太郎

轉入

兵長

留目勇

疾病

練兵休 二

中隊編成表

別紙ノ如シ



四月二日	部隊轉身準備ニ依ル被服返納並ニ兵器受領整備午入ヲ實於スルト	人員 一八二名
於 青山堡	共ニ兵器被服ノ梱包ヲ實施ス一三三〇ヨリ兵長以上ニ對スル船舶輸	
目撃時々小雨	送中ノ警戒戒法ニ關スル教育實施セラレ中隊長以下二名参加ス	
	要旨ノ敵潜水艦ニ對スル警戒戒ノ要領	
	又輸送中一般ニ注意スベキ事項	
轉出者	一等兵 沼武未長	
	久場良保	
	戸田由郎	
轉入者	一等兵 上野繁永	
	木佐貫守	
	山南匠二	
人員		一八二名

(續前頁・軍)

陸軍

業務分担表

警備中隊

監督	掛將校	主任	副任	業務區分
				當倉准尉 青木曹長
				一兵籍戰時名簿ニ關スル事項 一入事ニ關スル事項 一勤員編成ニ關スル事項
備考	一各官ハ所要ニ應ニ教育訓練ニ任スルモノトス 二業務遂行ニ當リテハ相互連繫シテ業務ノ圓滑ヲ圖ルモノトス			

(續前頁・軍)

業務分組表

警備中隊

監

掛將校

主任 佐副任

業務區分

當倉准尉 青木曹長

- 一 兵籍戰時名簿ニ関スル事項
- 一 人事ニ関スル事項
- 一 勤員編成ニ関スル事項
- 一 保育衛生ニ関スル事項

柴田少尉

青木曹長 當倉准尉

- 一 功績陣中日誌、行動詳報ニ関スル事項

天久保少尉

村田曹長 青木曹長

- 一 教育ニ関スル事項
- 一 勤務割出ニ関スル事項
- 一 秘密書類取扱ニ関スル事項
- 一 防諜ニ関スル事項

中

務

木村少尉 伊藤曹長 木村曹長

庶

- 一 命令會報ニ関スル事項
- 一 諸報告並ニ通報ニ関スル事項
- 一 圖書ニ関スル事項
- 一 人員異動録ニ関スル事項
- 一 郵便物ニ関スル事項

隊

松本見習 士官

本村曹長 伊藤曹長

務

- 一 金錢糧秣給與ニ関スル事項
- 一 貯金ニ関スル事項
- 一 事務用消耗品ニ関スル事項
- 一 被服用品ニ関スル事項
- 一 郵便物ニ関スル事項

長

塩野曹長 本村曹長 青藤曹長 小菅見習 士官

兵

- 一 兵器ニ関スル事項
- 一 練習具ニ関スル事項

青藤曹長 塩野曹長

器

- 一 射撃ニ関スル事項
- 一 飛行場整備器材ニ関スル事項

備考

- 一 各官ハ所要ニ應ジ教育訓練ニ任スルモノトス
- 一 業務遂行ニ當リテハ相互連繫シテ業務ノ圓滑ヲ圖ルモノトス

字削除
字押入
子削除

四月三日

於
青山堡

曇

中隊ハ主力ヲ以テ〇六三。〇九三。ニ至ル間轉身準備梱包ノ集積並ニ

區分ヲ實施ス。一。三。中隊兵舎前ニ整列一。〇。部隊分陣式ニ

参加(場所將校集會所前)

分陣式ニ於ケル部隊長訓示、

要旨別紙ノ如シ

一。三。五。飛大輸送命令第一號ニ基キ諸器材並ニ物品ヲ搭載ヲ

開始一五。〇。完了ス。一八三。中隊兵舎内ニ於テ演藝會ヲ實施ス

第一梯團中隊長以下二四名。一。一。〇。〇。乘車準備完了

二。三。〇。出發準備完了

松本見習士官以下六〇名第二梯團トシテ岩崎中尉ノ指揮下ニ入ラレム

柴田少尉以下四名先發高根庫曹以下四名後發トシテ残置ス

人員

一八二名



四月四日	輸送列車ハ。十四。釜山ニ向テ出發。二三。刻利著列車内ニ於テ休養
於 輸送列車内	。四二。刻利發一。四。林口著列車内ニ於テ晝食ヲ取ル牡丹江著一六。〇
晴	全員下車 車内清潔 整理頓ヲ實施後約三十分間体操實施ス
	鉄道輸送間、食糧乾パン三食分受領一八。〇夕食一八一五發車
	人員 本隊 一一四名
	第二梯團 六。名
	先後發 八名
四月五日	。九。五個門著列車戶ヲ遮蔽シ列車内ニ於テ休養ス。一。五個門發一。
於 列車内	二五鮮滿國境通過一三。〇。船舶輸送間ニ於ケル警戒戒法諸注意、教育
晴	約三十分間實施ス
	人員前泊ニ全シ

四月六日	。四二。新北西著朝食並ニ晝食ヲ受領一三一五咸興著一四。〇。發
於 列車内	一七五。元山著夕食ヲ受領ス一八三。〇。同地發釜山ニ向ヒ暮進ス
晴	人員 一八二名
	本隊 一一四名
	第二梯團 六。名
	先後發 八名
四月七日	。四。〇。忘憂著列車切替中後方汽関車ニ依リ列車事項ヲ發生シ
於 列車内	。七三。〇發車。八三。〇龍山著 二二一五釜山驛著行軍ヲ以テ宿舍釜山
兩後曇	中學校ニ到リ(一三。〇)別紙指管命令ニ依リ宿營ス
	先發者柴田少尉以下四名中隊ニ合ス
	人員 一一八名
四月八日	。七。〇。起床全カヲ以テ。八。〇。ヨリ輸送指揮官ノ命ニ依リ諸物品ノ卸下
於 釜山中學校	並ニ搭載ヲ實施ス一七。〇。作業ヲ中止シ夕食終了後一八三。〇ヨリ釜山機

晴	閩区内浴場ニ於テ入浴ヲ實施ス。消燈
	一九〇。第二梯團到着 後發者著隊
	人員 一八二名
四月九日	中隊ハ〇七三〇。殘務整頓員三十五名ヲ殘シ第三埠頭ニ向テ出發
於釜山	〇八〇。ヨリ搭載開始一六三〇。人員乗船開始一六四五乗船完了
晴	船内ニ宿泊ス
	人員 一八二名
四月十日	〇五一〇出帆ス對潛水艦警戒要員 長以下一〇名對空高射
於七八二九號	機關砲要員長以下二十五名
晴	LG長以下四名〇五〇。警戒配置完了。九〇。長以下九名船内衛兵
	配置風浪アリテ約二分ノ一、船酔アリ志氣稍衰フ一四三〇(一五三〇
	退船教育ヲ二回ニ亘リ實施スニ三三〇。門司港灣ニ入港停船
	二三五〇警戒ヲ解除セラレ監視員ヲ引上休養ス

四月十一日	午前船内ニ於テ休養 一三三〇(一三五〇中隊全員甲板ニ於テ
於門司	体操實施一五三〇門司港埠頭著
晴	人員 一八二名
四月十二日	糧秣積込勤務兵差出中隊ハ休養戰力倍養ヲナス兵ノ指志氣
於門司	益々盛ナリ一七三〇門司港出帆波靜カニシテ船酔等モ全クナク
晴	一般ニ元氣旺盛ナリ
	疾病 練兵休
	人員 一八二名
四月十三日	引續キ波靜カニシテ兵ノ志氣 旺盛ナリ晝間ハ救命胴衣ヲ脱
於七八二九	シ休養ヲ取り夜間ハ裝備シテ警戒ヲナス長以下五名、對空

曇時々小雨

監視哨差出し監視ニ任ゼシムル晝夜交代服勞

人員 一八二名

四月十四日

於

七八三丸

要旨

鹿兒島

最近台湾航路ニ於テ敵潜水艦ノ襲撃ヲ受ケアル狀況ニ鑑ミ
愈對潛監視ノ重要ナル地域ニ入りツツアル時各官ハ愈々緊張
シテ警戒仕務ニ從事シテハナラヌ本船ノ全責任ヲ有スル船長
ハ日夜寢食ヲ忘レテ其ノ責ヲ實行シアル又輩ニ於テモ昨日モ見
テ承知ノ如ク嚴ナル警戒ヲナシツアル 故ニ爾後將校下士官
ヲ以テ對潜水艦監視ニ萬全ヲ期サントス〇九二〇(一)〇九三〇三日
ル間將校ニ對スル訓示

〇九三〇對空監視ヲ中止シ一三四〇鹿兒島灣内ニ停泊ス
部隊長訓示注意一九二五(一)一九四五

要旨

退避時ノ注意事項

ノ先ツ自ラ飛込ム

之船沈メバ浮キ上リタル筏等ニ據リ休養ヲ取事ニ努メ

且各分隊毎ニ集合シタルコト出帆セバ晝間ハ休養夜間ハ全

員警戒ニ任ズル 諸子ハ勿論部隊ハ死生ヲ超越シテ部隊

ナル故ニ克ク思フ此處ニ致シ勅作スル事ヲ望ム

茲ニ訓示ス

人員 一八二名

四月十五日
 監視勤務員ヲ除ク主力ヲ以テ中隊ハ兵員室ノ清潔検査準備實施
 於鹿見島
 鹿見島市内ニ引來外出許可セラレ中隊ハ下士官以下三十六名午前
 七時
 午後二時三十分鹿見島市内ヲ遊歩銳氣ヲ養フ第一回一〇三〇
 一四三〇第二回一五〇〇一八三〇
 一四〇〇船内清潔検査實施セラル一五〇〇一五五〇退避訓練ヲ實
 施ス兵ノ志氣旺テリ
 人員 一八二名

四月十六日
 〇五三五不時退避演習警報發令セラレ兵ノ退避狀況概テ
 於鹿見島
 迅速ニテ急警集合場ニ完了マテ約十五分ヲ要セリ
 七時
 中隊決定ノ退避服裝中タアルニテ八卷セラルモ大部ナリ 前日ニ
 引續キ二回二時鹿見島ニ陸許可第一回三十七名 六二四七十八名
 兵ノ志氣益々旺盛ナリ
 人員 一八二名

四月十七日
 〇六二〇起床。七三〇ヨリ糧秣積込ノタメ便役兵下士官以下十名ヲ
 於鹿見島
 差出し其他ハ兵室ニテ休養戰力ヲ培養ス終日變り事ナク
 晴後曇
 平寧ナリ

疾病 三名
 外傷ノミニテ退避並ニ諸作業ニ差支ナシ
 人員 一八二名

四月十八日
 〇六三〇起床曇天ニシテ早朝ヨリ暑ク雨模様ナリ〇九〇ヨリ竹
 於鹿見島
 部隊全員前甲板ニ集約三分間船團會議ニ於ケル護衛
 曇時々雨
 官ノ注意並ニ要望事項傳達セラル

要旨

✓ 本船團ハ本日十二時那覇ニ向テ出港スル豫定出發前ニ注意並ニ要
 望ヲ傳達シ之ガ確實ナル實行ヲ望ム
 人晝間ハ絶体ニ甲板ニ出テイ事勤務者モ交代ニ名ノミニテ他ハ出テ
 様ニスルコト
 2. 出ル場合ハ必ス外被ヲ着用シ兵員輸送船タルコトヲ暴露シ不慮
 ノ難ヲ受ケ又機注意スルコト
 3. 燈火管制ノ確實
 4. 救命胴衣着裝確實
 遭難セル場合ニ於ケル注意
 一 護衛艦以外ハ攻撃ヲセズ
 二 魚雷ノ攻撃ヲ受ケタル場合ハ遭難船ヨリ一〇〇米以上遠キ背泳ヲ
 ナス
 三 護衛艦ノ攻撃並ニ遭難船ノ爆発等終リタル時ハ樂ナ姿

四月十九日
 於
 七
 八
 二
 九
 晴
 勢ニテ救助ヲ待ツ
 人員 一八二名
 四月二十日
 於
 七
 八
 二
 九
 晴
 後曇
 於
 七
 八
 二
 九
 晴

〇六三〇起床早朝ヨリ晴天ナレトモ東天雲多ク日出ヲ拝シタルハ七時
 頃ナリ風浪無ク船團靜穩ニ進ム一ニ〇〇全軍警戒發令セラレ
 敵潛艦ニ對スル警戒ヲ嚴シク、船團ハ大島ニ向テ進行ス

〇六三〇起床早朝快晴ナルモ〇〇頃ニ於テ一時曇小雨アリ後晴
 一ニ〇〇鹿見島灣ニ出發那覇ニ向テ一五〇〇灣内ヲ出ル頃ニ至リ風浪
 高ク船ノ動搖スルモ前航海ニ比シ兵士志氣旺盛ナリ船酔者
 約一割弱一ニ〇〇ヨリ第五對潛監視哨ニ服務兵力將校以下
 十八名(九名ニ交代)夜ニ至リ風浪稍、靜トナレリ
 人員 一八二名

一六三〇危険区域ヲ脱シ沖繩縣奄美郡島内入り上甲板ノ出入ヲ許可セラル兵歡喜ニテ甲板上出ズ暮色緑ノ島ヲ覆ヒ景絶勝ナリ内海浪無ク鏡ノ如シ一九三〇大島内海ノ灣ニ錨ヲ投ズ

人員 一八二名

四月二十一日

〇三四〇大島内海ヲ那霸島ニ向テ出發霧多クシテ視界狭ク時々小雨アリ日ノ出ニ至リテ晴ル航路大小島多數望見セラレ一八三〇

沖繩近島
七八二丸
島々時々雨

沖繩島東北端灣内入り錨ス小雨アリ

人員 一八二名

四月二十一日

〇六〇〇出帆風無ク鏡ノ如キ航海ナリ〇九〇頃敵潜水艦ヲシキモノ出現セラレ認メラレ對潛警戒發令セラレモ其ノ後何等ノ異常ヲ認メラズ一〇〇〇那霸灣ニ入港ス

於那霸
七八二丸

一三〇〇一四三〇全員ヲ以テ船内清掃ヲ實施シ爾後上陸準備一五〇〇完了冬被服着用ノ夕ノ暑氣堪シ

設営準備トシテ當舎准尉齋藤曹長以下八名一四〇〇先發セシメ

中隊ノ設営ニ任ゼシム中隊長同時ニ先發ス

部隊長訓示要旨

部隊ハ天祐神受ヲ以テ無事第一目的地ニ到着シ得テ事ハ諸士ト共ニ喜ヒトスル所ナル

愈部隊ノ任務ニ向テ邁進スル時ガ来夕部隊ハ二三日當地ニ於テ戦力培養ト轉進ノ準備ヲスルニ就テ注意スベキ二三ノ事項ヲ述ベル

一 火災豫防

二 敬禮ノ嚴正 敬禮ハ軍紀ノ根源ナル特ニ當地ハ敬礼ヲ

嚴正ニ實行セラレアルニ依テ注意セラル望ム

三 衛生事項